


| 1 総合評価の結果 | | | | |
|----------------|---------------------|--------|----|-------|
| 建物名称 | レーベンリヴァーレ エイセス モバード | | | |
| BEE (建築物の環境効率) | 1.2 | BEEランク | B+ | ★★★★☆ |

| 2 重点項目への取組み度 | | | | |
|--|----------|-----|-------|--|
| 重点項目 | 評価 | 劣る | よい | |
| 地球温暖化への配慮 (ライフサイクルCO2)  地球温暖化の主因である二酸化炭素の排出量削減対策に関する項目 LCCO2(ライフサイクルCO2): 建設してから解体するまでの建築物の一生(ライフサイクル)で使われる資材・エネルギーをCO2排出の量に換算し、足し合わせたもの | LCCO2排出率 | 73% | ★★★★☆ | |
| ヒートアイランド現象の緩和 ヒートアイランド現象(=都市部の気温が周辺部よりも高くなる現象)を緩和する対策に関する項目 | スコア | 2.5 | ★★★★☆ | |

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア (5点満点 平均スコア=3点)

| 地球温暖化への配慮 | レベル | 評価のポイント |
|-------------------|---------------------------|---|
| LR3/1 地球温暖化への配慮 | 4.0 | 標準計算によるLCCO2(ライフサイクルCO2)排出率を評価 |
| 建設 | LR2/2.1 材料使用量の削減 | 2 |
| | LR2/2.2 既存建築躯体等の継続使用 | 3 |
| | LR2/2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 | 3 |
| 運用 | Q1/2.1.3 外皮性能 | 3 |
| | LR1/1 建物の熱負荷抑制 | 3 |
| | LR1/2 自然エネルギー利用 | 3 |
| | LR1/3 設備システムの高効率化 | 4.9 |
| 修繕更新解体 | LR1/4 効率的運用 | - |
| | Q2/2.2.1 躯体材料の耐用年数 | 5 |
| ヒートアイランド現象の緩和 | レベル | 評価のポイント |
| Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上 | 2 | 熱的な悪影響を低減する対策(敷地内へ風を導く、緑地や水面を確保する、建築設備による排気や排熱の位置等に配慮するなどにより暑熱環境を緩和する対策)を評価 |
| LR3/2.2 温熱環境悪化の改善 | 3 | 温熱環境の事前調査、敷地外への熱的な影響を低減する対策、温熱環境悪化改善の効果の確認に関する取組み度合いを評価 |

| 関連項目 | レベル | 評価のポイント |
|-----------------|-----|--|
| LR2/1.1 節水 | 1 | 節水への取組み度合いを評価 |
| Q3/1 生物環境の保全と創出 | 2 | 生物環境の保全と創出に関する配慮(立地特性の把握と計画方針の設定、生物資源の保全、緑の量・質の確保、生物環境の管理と利用など)を評価 |

| 主な指標および効果 | | 自由記述 |
|--|--------------|---|
| LCCO ₂ の削減率 (= 1 - 「LCCO ₂ 排出率」) | 27% | ・居室全体にF 等級の建材を使用、接着剤にノンホルマリン接着剤を使用しホルムアルデヒドの発生を抑制している。 ・オール電化やヒートポンプ式電気給湯機を採用し、地球環境に配慮した設備を導入している。 ・敷地内緑化20%や提供公園の整備を行い、周辺環境への配慮を図っている。また、鎌倉市の要望により接道部の擁壁を石調仕上げとしている。 |
| PAL値/省エネ対策等級(1~4) (工場用途は評価対象外) | 3 / - (集合住宅) | |
| 用途 | | |
| 用途 | | |
| 用途 | | |
| 用途 | | |
| ERR (設備システムの高効率化) | % | |
| 自然エネルギーの利用 | | |
| 太陽光利用(太陽光パネルなど) | MJ / 年 | |
| エネルギー削減率 | % | |
| 太陽熱利用(太陽熱利用給湯システムなど) | MJ / 年 | |
| エネルギー削減率 | % | |
| その他高効率機器等 (有の場合は内容を自由記述欄へ記載) | 有 | |